

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 新規報告者数（10万対）は、12月初旬からの急拡大していた時期（25人前後）と比較すれば、拡大傾向から高止まりの状況（20人未満）となっている。12月12日以降の集中対策期間における各種対策の効果が現れているものと考えられる。
- 一方、広島市内の新規報告者数は、27.0人と依然としてステージIV相当の数値である。また、感染状況の指標の1つであるK値も、1月に入って以降下げ止まっている。
- 東京を中心とする関東圏、大阪を中心とする近畿圏、愛知県、岐阜県、福岡県などの全国的な感染拡大の状況が改善しない中で、現時点において、本県の各種対策を緩めることは、感染の再拡大に繋がるリスクがある。現状の高止まりの状況からより低い水準にするため、更なる徹底した対策を行い、感染を抑え込むことが必要である。
- また、感染の発生の際は、飲食・会食・職場から、家庭内や、医療施設・介護施設・障害者施設等といった様々な場に拡大・移行し市中感染の状況となっている。特に、医療施設、介護施設でクラスターが多く発生しており、現場のスタッフや関係者の負担は非常に大きいことから、早めに探知し抑え込むことが必要である。

【医療提供体制】

- 新型コロナウイルスに対応可能な病床の確保は徐々に進んでいるものの、感染が拡大したことによる高齢の患者の増加に伴い、中等症以上の患者も増加傾向にあり、また、入院期間も全体として伸びる傾向となっていることから、依然として病床はひっ迫している。
- 特に年末年始、広島市内及びその周辺部の重症者用の病床は、非常に厳しい状況となった。そのような状況に至らぬよう、感染拡大の状況ではないこの時期を捉えて、医療提供体制を見直し、対応医療機関への要請等による、体制の再整備が必要である。
- 同時に、高齢の患者が増加していることから、高齢者専門の受入れ施設や退院基準を満たした高齢者の受入れ等の後方支援を行う病院を選定するなど、限りある病床を効率的に運用する対策についても検討が必要である。

【医療機関や高齢者施設等におけるクラスター】

- クラスターの発生している医療施設、介護施設及び障害者施設の現場は相当厳しい状況にあり、早めに探知し抑え込む対策として、保健所が核となり、県、市、感染症医療支援チーム、DMAT、NGO、県看護協会等の関係者が連携し、有機的な活動で支援することが必要である。

【ステージ判断と対策期間について】

- 県全体としては、前回のステージ判断と同様、ステージⅡとする。
- 広島市については、ステージⅣ相当とし現在行われている集中対策を強化し、早期にステージⅢ、さらにステージⅡ以下の水準を目指し、取組を延長することについては賛成する。
- 周辺の市町（廿日市市、海田町、府中町、坂町）については、新規報告者数が減少していることや、感染経路不明割合も低く抑えられており、対策による一定の効果が認められていることから、当面、現行の対策を継続し、感染者の発生状況等の推移を注視することが必要と考える。

【第二次集中対策について】

- 人流の削減対策、職場への対策については、具体的な数値目標を立て、取り組みを進めることは、その施策の達成状況を判断する上でも有効な方策と考えられ、人と人との接触の機会を減らすことに繋がることから、積極的に進めるべきと考える。
- また、PCR検査については、医療機関・高齢者施設等の職員を対象とした検査の頻度を高めることは、患者や利用者が感染した場合の重症化のリスク等を考慮し、効果が期待できると考えられる。一方で、広く市民を対象としたPCR検査の実施にあたっては、検査の有用性のみならず、結果の解釈などもセットで丁寧に情報提供を行うとともに、陽性者に対するその後の疫学調査や療養施設・医療体制の確保についても、併せて実施することが必要である。